

2015 年度（対象年度：2014） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 6	学生支援
------	------

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
602	学生への修学支援は適切に行われていますか。	①留年者および休・退学者の状況の把握し、適切に対処していますか。【※どのように】 ○留年者および休・退学者の状況把握と対処（防止含む）	B	B
		②補習教育に関する支援体制を構築し、補習教育を実施していますか。【※どのように】 ○チューター配置やリメディアル科目等の実施状況など	A	
		③障がいのある学生に対する修学支援措置を実施していますか。【※どのように】 ○ノートテイク、科目担当者への協力要請など	A	

2. 現状説明 《記述形式》

<p>対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。</p>
<p>602①2013 年度教学部において退学理由等を調査した結果、現在、本学が設定している退学理由の項目は、多くの意味合いを包含するような文言で設定されており、対応する教職員の聞き取り方も学部間で異なることから、問題の所在が全学的に統一した基準で特定できないという問題がある。このような問題を改善し、全学的に共通の観点・方法で、退学者減少に向けて取り組めるように、各学部における退学理由の把握方法及び対応方法を整理・検討し、退学理由の把握方法の共通化に取り組む。このことについては、2014 年度教務会議において、改善の方向性を全学部等で確認している。</p>
<p>602②補習教育に関しては、各学部が必要に応じて単位僅少者に対する面談の実施、オフィスアワー、リメディアル教育等の実施、e-learning を活用している。各学部教務課において随時履修相談を実施するとともに、シラバス上には、「履修上の注意・担当者の一言」「授業時間外における予・復習の指示」欄を設け、指導の一環としている。また、専願制推薦入試制度で入学する学生については、学部別（経営学部を除く）に入学前教育を実施している。</p>
<p>602③障がい学生に対する修学支援については、年度初めに障がいのある学生の把握を行い部局長会に報告を行った。また、各学部・研究科における障がい学生一覧表の活用状況についても全学的に確認を行い学長会に報告を行った。支援を希望する学生に対しては、一人ひとりのニーズに対応した支援（点訳・ノートテイク等）を実施した。支援の対象・範囲、障がいのある学生に対する修学支援措置については、障がい学生支援室と連携し、「障がい学生支援委員会」で確認を行っている。</p>
<p>[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。</p>
<p>（自ら「改善すべき点」と掲げた事項）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・退学者について、各学部における退学理由の把握方法や対処方法が学部によって異なっていることから、全学的に共通の方法で取り組めるように改善を行う。

(評価結果で「改善すべき点 (【改善勧告】【努力課題】【留意点】)」とされた事項)

- ・各学部における退学理由の把握方法や対処方法が学部によって異なっている点を是正し、全学的に共通の観点・方法で、退学者減少に向けて取り組めるように改善を行う必要がある。【努力課題】

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項 (特色ある取り組みや成果創出など) とその伸長方策を記述してください。

特になし

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

退学者について、現在、各学部において退学理由の把握に取り組んでいるが、今後、より退学抑制に資するよう、さらに精緻な退学理由の把握方法や、全学共通の対処方法について検討する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
602	各学部における退学者及び単位僅少者の対応方法 (2013 年度調査結果)
602	2015 年度推薦入学試験合格者対象 龍谷大学 入学準備サポートプログラム (各学部) 実施概要
602	各学部・研究科における障がい学生一覧表の活用状況について
602	障がいのある学生への支援について

II. 評価結果

総評
退学理由等を調査した結果、退学理由の項目は、多くの意味合いを包含するような文言で設定されており、対応する教職員の聞き取り方も学部間で異なることから、問題の所在が全学的に統一した基準で特定できないという問題がある。このような問題を改善し、全学的に共通の観点・方法で、退学者減少に向けて取り組めるように、各学部における退学理由の把握方法及び対応方法を整理・検討し、退学理由の把握方法の共通化に取り組んでいる。また、このことについては、2014 年度教務会議において、改善の方向性を全学部等で確認がなされている。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》
改善すべき点 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
改善計画書にも記載されている退学防止に向けた対策を検討するために退学理由を全学的に共通の観点とすることも必要な作業であると認識する。分析後の対応策についても早急に検討いただきたい。【努力課題】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要